

# Civimoto



高松市美術館  
ボランティア通信  
2005年4月1日発行

し び の ー と

紙 上 ギ ャ ラ リ ー ト ー ク

ヨーロッパの古都

## ゲント美術館名品展

～西洋近代美術のなかのベルギー

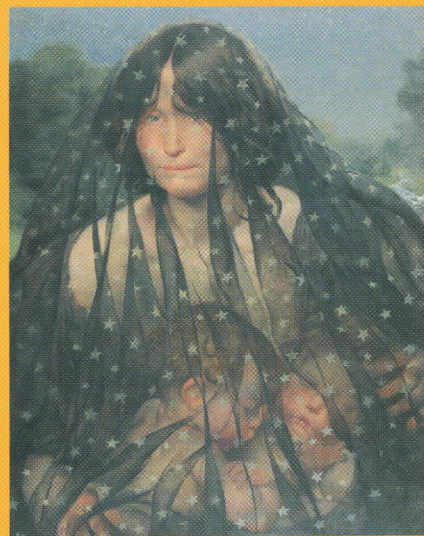
会期 4月15日(金)～5月29日(日)

絵をじっくり観て、この女性のことを色々想像してみてください。ベールの下に二人の子供を抱いています。若い母親だろうことは想像が付きませんが、作者は果たして何を訴えかけているのでしょうか？・・・この絵は、ベルギーの画家、レオン・フレデリックの作品です。

19世紀の終わり、自分の目で見、感じたものだけを表現しようとする写実派や印象派に対して、目に見える現実を超えた深い意味を表現しようとする象徴派が現れ、ブリュッセルは象徴主義運動の中心地のひとつとなります。ブリュッセル生まれのフレデリックは、現実をあるがままに写し取ろうとする自然主義やある種の神秘主義の影響を受け、また、社会的関心が強く、主に農民や労働者など恵まれない階級の人々を主題にしていますが、1890年頃から同時に象徴主義の影響も受け、キリスト教的精神と無政府主義の元に絵を描いていきます。この一枚《夜》は彼の制作のなかでも象徴主義が際立っている作品です。二人の子どもは朝と夕べを象徴し、生命そのものであり、傷つきやすい存在として表されています。子を抱く女性は母性を表し、厳粛なまなざしで生命の未来を見通しているようです。星で飾られたベールをかぶり、まるで人工的な垂れ幕の前に立っているかのようなピラミッド構図は芝居がかった感じを強調し、現実感を超越した描写を生み出していますが、その表現がこの女性を神聖化し、すなわちマリア像を連想させます。この女性は母親像の原型であり、神秘的で夜の自然界の様

に絶対的です。作者はこの絵によって、自然の静かで平穏な力、女性の本質や愛について物語っているのです。さて、もう一度この絵を観てください。中世から多くの画家によって描かれてきた聖母子像、レオン・フレデリックのこの一枚もまるでルネサンス期の巨匠の絵を思い出すような安定した構図で描かれているのですが、他の画家が多く描いてきた聖母子像とは何か違う空気を感じませんか？見慣れた構図、見慣れた題材なのに、何かが違う、何が違うのか？

4月15日から開かれる「ゲント美術館名品展」、皆さまも是非会場での女性と直接向き合ってみてください。 [池田幸子]

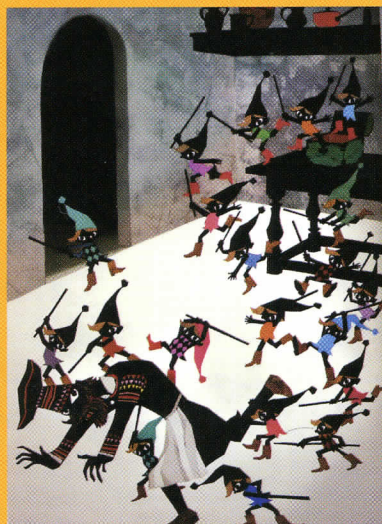


▲レオン・フレデリック《夜》1891年

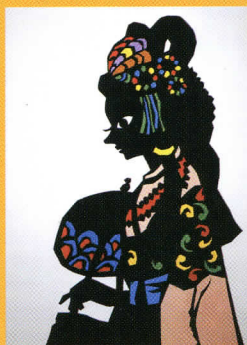
## 藤城清治の世界展

～光と影のシンフォニー～

会期 7月22日(金)～9月4日(日)



▲《ごちそうの好きなこびと》1978年



▲《おとひめさま》1952年

藤城清治氏は、1948年から「暮らしの手帖」で人形劇の連載を開始し、影絵絵本「銀河鉄道の夜」を手掛けるなど、光と影で表現する影絵を芸術として広く浸透させた作家です。藤城氏の画業を振り返る本展出品作の中から2点をご紹介します。

《おとひめさま》(1952年)は藤城氏が20歳代のときに出版した2冊目の絵本「浦島太郎」の表紙を飾った影絵です。切り目をいれ、紙やフィルターを貼り合わせた藤城氏の作品はじつに繊細で、線も切り絵とは思えないような細さです。その技術自体は誰にも真似できない、まさに神わざです。しかし、この作品はシンプルなせいも、小学校の図工の時間に、黒い画用紙を切って色セロハンを貼って作った素朴な影絵の記憶を思い出させてくれます。

《ごちそうの好きなこびと》(1978年)はフィンランドの昔話にもとづく作品です。心優しい料理番はお腹をすかせたこびとに招待され、何でも出てくる箱をもらいます。一方、こびとに乱暴をした欲深い主人はこびとから箱を貰ったものの、中から大勢のこびとたちが棒を持ってあらわれ主人をボカボカにたたいた...というお話です。日本の昔話にも似たようなお話がありますね。この作品に登場する「こびと」は、藤城の他の多くの作中に登場しています。ある時は主役として、またある時は脇役や案内役として。50年にわたり、藤城氏の作品に登場してきた彼らにあなたもどこかで出会っているはずですよ。

写真ではその魅力を十分に味わえない、光と影が織り成す幻想的な藤城清治の世界をぜひ会場でお楽しみください。 [石床亜希]



依田順子《Untitled #11 (Susquehanna River)》1994年  
アクリル・和紙・ボード／203×457.5 (cm)／高松市美術館蔵

依田順子さんのこの作品は、ぜひ、実物を間近で見たいだけではないと思います。写真では、どれだけこの作品の雄大さ、重厚さが伝わるでしょうか。  
203cm×457.5cm  
という大きな画面に、つばいに、色付けされた和紙を、切ったり、よじったり、結んだりしたものが、三層にも重ねて貼り合わせられたコラージュ作品です。依田さんは徳島に生まれ、中学のころ香川に移り住み、25歳の時、画家である依田寿久氏と結婚し、ニューヨークに渡ります。最初2年の滞在のつもりが、アーティストの独創性を優しく受け容れてくれるニューヨークに魅せられそのまま36年間、ニューヨークをその活動の拠点としているわけですが、この作品は、大好きなニューヨークを流れるサスケハナ川を描いています。依田さんは、大きく蛇行を繰り返す魅力溢れるこの川の形に強く引かれて、以来川を描くようになったという事です。



画面をよく見ますと、オレンジ色の川の姿が見えてきます。川は大きく蛇行しながら右上方から下方に向かい、一旦画面から消え、再度、

左端にその姿を見せています。「川を描きながら途中ではつきりとした川の形が邪魔になり、けれどなくてはならないというぎりぎりのところでは上がった」また、「長い流域を持ち蛇行した川を描く為にこれほど大きな画面が必要でした、画面上の、和紙を三本つつ結ぶことで出来たつぶつぶの形が、川をよりゆつたりと、大地をより広大に見せる働きをしていることを気付いて頂けるとうれい」との依田さんの言葉は、鑑賞の導きとなるものです。

それにしてもなんと細かい作業でしょう、これだけの大作、準備から完成まで、エネルギーを維持させるのは大変な事なのでは？また制作時間は一体どのくらい？というのが私の素朴な疑問でしたが、その質問に対して心のこもったお返事をいただく事が出来ました。

「特別に大きな作品ですので大仕事でしたが、途中で息切れするような事は無く、約4ヶ月の間、一日の大半を作業に費やし、出だしは興奮気味に、中間は黙々と、終わりは緊張感で震えるほどでした。」これが、芸術家が作品に向かう時の姿勢なのだと感じました。

最近の依田さんの作品は、本作品のようなリリーフ的なものからより立体造形へと、変化しつつあるようです。新しい作品が楽しみです。

〔石原ミエ子〕

## 主な活動

'04

- 9.4 「フェルメール『画家のアトリエ』 栄光のオランダ・フランドル絵画展」(神戸市立博物館)鑑賞／講演会：岡泰正学芸係長 ■
- 11.1 しびの一と10号発行
- 11.2 ジョン・ミュシャ氏(ミュシャ財団理事長、アルフォンス・ミュシャの孫)に質問 ■
- 11.3~12.12 「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」ギャラリートーク(会期中毎日曜・祝日、各日午前・午後、開催回数約16回、参加者数約720名)
- 11.17 「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」団体鑑賞ギャラリートーク(多肥小学校2年生87人、学芸員とともに)



▲小学生へのギャラリートーク

- 11.20 「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」アートで遊ぼう！アシスタント、「ミュシャ財団秘蔵 ミュシャ展」団体鑑賞ギャラリートーク(老人クラブ)
- 11.27 姫路市立美術館友の会(ボランティア)と交流会
- 10.3/10.24/ 子どものアトリエVol.4「手づくり大好き！」
- 11.14/12.5 私だけの作品(講師:藤川春子)アシスタント ■

'05

- 1.23/2.6/ 子どものアトリエVol.5「自由な組み合わせでアートしよう(講師:山端篤史)」アシスタント
- 2.20/3.6

## 2005年2月19日(土) アートで遊ぼう！ 体験！「アクションペインティングとシルクスクリーン」

参加者は5期常設展「20世紀美術の流れ」を鑑賞した後、同展出品作で用いられている2つの技法、アクションペインティングとシルクスクリーンを体験しました。前者は絵具が飛び散るのを防ぐため箱の中で絵具をしたたらせて制作してもらい、後者はプリントゴッコでリキテンスタイン(泣く女)のイメージを刷ってもらい(といってもイメージを刷っただけですが)、彩色してもらいました。技法を体験することで彼らは現代美術をどのように感じたのでしょうか？現代美術はやはりムズカしい？それとも楽勝？！ [牧野裕二]



## 美術館日記



## \* civi 3期生・1年の活動を振り返って！ \*

- 浦上: 作品を感じ、子供たちを知り、そして新しい仲間たちとの出会いを与えてくれたciviに感謝します。
- 大澤: civi史上、初の男性会員です。子供達から「アニキ」マルナカで見かけたでえ！などと慕われ？嬉し恥ずかし早や一年。
- 川田: 約10ヶ月の冬眠生活を終え、遅ればせながら皆様の仲間入りです。これから先にわくわく、ドキドキ。
- 高木: 初トーク直前の館内アナウンスに心拍数は倍！知ることで作品への愛がより深まるのを体感しました。
- 堀本: 世のため、人のためと、奉仕精神のつもりで始めたボランティア。なのに自分が一番楽しんでます。これからも精進。
- 三好: 私はドラエもんが描けない。私は皆の前でコラージュの説明ができない。体力さえあれば出来ると始めたけど、あかん。知力も要る。
- 森糸: めでたくciviの一員となり、晴れのG Tデビュー。が、不安とプレッシャーの雨あられ。あーした天気になあれ！

